



Sentinel/online, March 2011

**"神さま— 私たちの優しいお父さん・お母さん"**  
**"God—you are our Otoh-san [Father], Okah-san [Mother]"**

金田 (かなた) 民栄/ Tamie Kanata

神さまは、ストレートに愛情を表現する、神性の愛そのもの、そして神性なる存在です。私たちが困惑・動揺させたりは、絶対にしません。

神さま—あなたは、私の、いえ、わたしたち人類一人ひとりの、それはそれは優しいお父さん・お母さんです。あなたの本質は、永遠に、一切、変わることはありません。変わる事自体、不可能なのです。

今回の地震があつてから、わたしは日々祈り、更にあなたを一步ずつ知り、近くに感じています。そして、あなたが造りになった被造物を、毎日少しずつ、一步一步、より理解し意識しています。あなたの創造物は、霊的のです。そしてそれは、現実のもの、実在するものです。この宇宙、そして人類、私たちの一人ひとりが、あなたご自身によって、善として、創造されたのです。

私の日本の家族・友人たちですが、親であるあなたご自身に、ゆだねてお任せしようと思っています。直接彼らを、大切に大切に世話してくださるのは、あなただからです。あなたの子供であることが、彼らの本体・個性だからです。物質的に凶れば、親愛なる私の家族・友人たちは、遙か遠く離れた場所にいるように思われます。でも、実は、日本にいる私の家族・友人たちは、私の思い・祈りの直ぐそばにいます。まるで、すぐお隣さんであるかのように。だから、物質的な距離という観点で、悲しんだりするつもりはありません。事実、日本在住の私の母は、いつもどおりとても明るく朗らかで、暗い様子を見せていません。神さま、ありがとうございます。感謝します。

父・母なる私たちの神よ。あなたは、「造られたものをすべて造り」、あなた自身に「反

Author's Name / Tamie Kanata

他の日本語記事については、次をご覧ください：<http://www.christian-science-sakigake.com>

© 2011 The Christian Science Publishing Society (CSPS)  
この記事は、100部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事メール (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事が他の出版物に転載する許可を得るには、[copyright@csp.com](mailto:copyright@csp.com) 宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

対のものは、たった一つの原子でも要素でも、創造できなかったもの」でおられます (科学と健康-附聖書の鍵、p. 583)。あなたは愛そのものです。

地震のニュースをはじめて聞いたとき、私は一人静かに祈り、意識を静寂にしました。また、いつでも24時間体制で祈ってくれるキリスト教科学の実践士の方に、早朝電話を入れ、重くなりそうな気持ちから癒され、そしてしっかり祈ることが出来るように、祈ってほしいと依頼しました。時間が経つにつれて、私は更に意識の中で深い静寂を感じました。そして、その静寂の中に私は、大きな岩のように頑丈で揺れ動かない、ひしめかない、在る実在感をはっきりと感じ、認識したのです。それは、自分をまるで、岩にピッタリとくっ付いた、羽のように感じたかのようなでした。その羽は、大きな岩に横たわっていて、安らいでいて、ビクともせず、また逆立って風に吹き飛ばされることもない羽のようでした。その羽は、ピタッと岩にくっ付いていて、まるで岩と一つになったようでした。それはそれは安全で、安心で、そして頑強で。そして、その岩のように感じたのは、私たちの存在について率直な答えをくれる**真理**なのです。**真理**とは、**神**の同意語の一つでもあるのです。

**真理**は正直です。**真理**そのものが、**神**がいったい何であり何を行うかを、はっきりと示してくれます。同時に、**神**が絶対に行わないこと、**神**の本質ではないものをも、しっかりと示してくれます。

私は、かつて、一度、瓦礫の前に立ち尽くしたことがありました。私の高校時代の親友が住んでいた3階建てのアパートの前ででした。あの日の朝に配達された朝刊は、彼女の郵便受けの中にまだあの日の日付のまま、残っていました。埃にまみれ、色があせていました。それは、あの大地震が、美しい港町の神戸を直撃した日の、数ヶ月後のことでした。中学校・高校時代のうちの5年間を神戸で過ごした私は、あの日、神戸を東京から車を飛ばして、訪ねていたのです。

それまでも私は、微動だにしない、揺れ動かない**真理**とは何か？と、いつも知らず知らずのうちに、心から求めていました。しかし、満足のいくものは見つかっていなかったのです。同時に、あの1995年の春の日、私が神戸で目の前にしたイメージにも、納得がいきませんでした。悲しい感情に押し流されそうになった時、私は、友人の本来の真の姿、**真理**によってのみ、彼女を知ることが、友人として、いかに大切かを実感していました。

Author's Name / Tamie Kanata

歪んだイメージは、受け入れられなかったのです。それは、今考えれば、霊的な正義・公正・正当な考え方を求める姿勢でした。私はその年、留学のため、東京からアメリカのペンシルバニア州に引っ越しました。そして、そこで1年半後経ったある日、いつも心のどこかで求めていた**真理**と出会ったのです。その**真理**とは、ややこしい不明瞭で混乱させる神とは、ほど遠い、非常にシンプルで明瞭な**神**でした。それは**キリスト教科学**を通して得た、理解でした。

その**キリスト教科学**を通して見つけたのは、私たちは**神**の子供たちで、そして、それはそれは優しく愛情にあふれた**お父さん・お母さん**である**神**さまと、とてつもなく頑丈な関係によって結ばれているということでした。**神**はあまりにも清くそして愛情に満ちているため、ましてや、病気・死・罪・災害・不幸といった、**神**みずからの性質から離れたこれらの現象を作り出すことなど、決して出来なかったのです。

また、私たちの**親**である**神**さまは、癒す**真理の科学**(=キリスト教科学)を通して、私の神戸の友人を含む全ての人に関する**真実**を、教えてくれたのです。次の聖書の一文が、それを明確に表してくれています：「それだから、わたしたちは今後、だれをも肉によって知ることはすまい...」(コリント人への第2の手紙 5:16)。**神**自身の性質に正直に従い、私の友人を**神**の霊的被造物としてのみ、はっきり認識することによって、私は、深い悲しみや混乱から癒されたのです。言い換えるならば、正直に考え、**真理**に従順に生きること、すなわち、**創造主**との安定した心強い関係を、経験かつ表現する人生を送ることになるのです。なぜなら、わたしたちの**創造主**は、無限の善そのものだからです。

日本での地震が起こってからのここ数日間、非常に厳しい状況の映像があふれる中、私には、この揺るがない、微動だにしない**真理**の光が、大きな希望となっています。ニュースを(もっぱら読みながら-繰り返される強い印象のイメージに取り付かれるのは避けながら)、日本のそして海外の友人たちの不安や恐怖を少しでも和らげたいと思い、電子メールや、フェイスブックや電話で、連絡を取り合っています。アメリカのある友人は、今回の地震について、こう言いました：「神さまを、疑っちゃいけないのよねえ。でも、やっぱり、何の罪もない子供を含んだ人々を、ああやって自然災害を通して苦しめるのは、どうも納得がいかないのよね」と。私は彼女に言いました：「そんな苦しみを与える神さまって言うのは、日本では教えられてないのよ。それは、私たちには相容れない概念よ。もしそんな神さま

Author's Name /TamieKanata

の姿が、納得いかないのなら、疑問に思っただけだ」と、言いました。

また、ここ15年連絡を取れていなかった友人で、欧州の自国に帰国していた女性は、何らかの形で私の連絡先を見つけ、電子メールを送ってきました。驚きました。彼女は、何か、世紀末が近づいているのではないか？というメッセージを書いてきました。私は、そこで、旧約聖書の列王記上から、次のシンプルなメッセージを、聖書を読んで育った彼女に送ったのです：「しかし主は風の中にはおられなかった。風の後に地震があったが、地震の中にも主はおられなかった。地震の後に火があったが、火の中にも主はおられなかった。火の後に静かな細い声が聞えた」(19:11,12)。そのメッセージを受け取った後、その友人はこう返答して来ました：「あのね、日本が今大変なのは分かってるんだけど。実も、私のためにも祈ってほしいのよ、大変な思いをしているの。」どうか助けてという彼女のメッセージに、私は役に立つであろう情報と、**真理**に基づいた考え方を、シェアしました。

原子力発電所をめぐる不安については、この問題が浮上し始めた当初に、何人かの友人たちに**科学的**に一緒に祈ってほしいと、リクエストの電子メールを送りました。日本について、既に祈ってくれているだろうとは思っていましたが、彼らの明確な祈りを通じた助けを、必要に感じたのです。同時に、私は、**神**のみが唯一の知性であり力であると祈り続けています。次の文章が非常にはっきりと確信をもって、どのように原子力に関して考えたらいいかを、位置づけてくれます：「人の完全性は不可侵である。それならば、**神**以外のもの、人の**創造主**の対(ついで)ではないが偽物である何かはどこから存在することが出来ようか？それは**神**からではない、なぜなら**神**は**神自身**の似姿に人を創造したからである。それならば、物質と呼ばれる、原子力や、分子は、一体どこからやってくるのか？引力や結合によって形成されたのか？しかしこれらは物質の法則なのか、それとも**心**の法則なのか？」(メリー・ペーカー・エディ著、*Miscellaneous Writings 1883-1896*の中からの抜粋)。

ですから、私は今日も明日も、そして時間に制限されない私たちの実在において、**神**に愛され、愛され続ける子供として生き続けるのです。それはそれは優しい**お父さん・お母さん**の腕に抱かれて。**神**との堅実で愛に満ちた関係は、揺るがず、壊れることなく、不変です。**神**との神性なる関係があるからこそ、私たちは、衣・食・住全てにおいて、必要を満たされ、また、様々な面において自由を得るのです。そして、**神**の無限なる霊的被造物の一部を成す物として、私たちは、時間に縛られない、善を確かに経験するのです。そして、

Author's Name / Tamie Kanata

もっとも重要なのは、私たちは決して孤独な存在ではない、決して一人ぼっちではない！ということです。

最後に、この記事は、次の素晴らしい賛美歌で締めくくりたいと思います。この歌を歌うと、私はまるで何千マイルを越えて、日本に帰った気持ちになるのです。また、いつも通っていた**キリスト教科学**の教会を思い出します。そこでは、会衆が同時に、日本語と英語で、賛美歌と一緒に、声を上げて歌うのです：

視野ひらけ 魂よ  
 束縛をくずし去り  
 示せや 新天地を  
 アレルヤ アレルヤ

(キリスト教科学 賛美歌抄 66 番)

最後の歌詞は、「示せや 新天地を」と歌っています。これは、神が既に、天(すなわち、「調和；霊の統治；神性**原理**による支配；霊性；至上の喜び；**魂**の雰囲気」；、『**科学と健康**』によるその霊的定義)、および、地(「永遠性と不滅性の一形態」p. 585)において、私達を、**神**の理念として認識し、しっかり見ているということを示します。そして、**神**ご自身が、平安と和の現実を、私たちの意識・そして日々の実生活において、具体的に展開・表現しているのです。そうです、私たちの、この美しい地球上で。

Author's Name /TamieKanata

© 2010 The Christian Science Publishing Society (CSPS)

この記事は、100部までプリントアウトして、非営利として美費で提供することができます。この記事はメール (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事は他の出版物に転載する許可を得るには、copyright@csps.com 宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。